

# 編集後記

先輩方が支えてくださった飛翔、次は私たち 26 生が次へつなぐ番だと。意気込みはありましたが、たくさんの新メンバーとの時間合わせなど、苦戦する部分が多々ありました。先輩方は私たちに丁寧に教えてくださっていたのだなと、ひしひしとを感じる回でした。今後は一読者として、飛翔を支えていけたらなと思います。飛翔に関与された多くのみなさま、ありがとうございました。

副編集長 26 生 竹内 音寧

飛翔の編集委員になって、文字起こしなどの本格的な編集作業に初めて関わりました。私は自宅生で部活も高校と同じなので、飛翔の編集はこの 4 か月で唯一の思い切った挑戦だったと思います。取材の中で、自分にとって初めての情報、ぜひ人に発信したいと思える情報に出会うことができました。文章を書くのも嫌いじゃないな、ということを再認識する機会にもなりました。体験して初めて気づくことも多かったので、挑戦してよかったです！

27 生 古川 幸実

私は社会探究領域と OBOG を担当させてもらいました。多くの経験を積まれた人の話はタメになることばかりで、飛翔に携われて良かったと心から思っています。授業では手に入れない知識や考え方を得ることができたので、ぜひこれからも様々な人へインタビューしたいと思っています！！

27 生 堀田 悠輔

取材に遅刻しそうになったり、編集に遅刻したり、締め切りに間に合わなかったり・・・、何度もご迷惑をおかけしてしまったことを大変申し訳なく感じております。しかし、それと同時に微力ではございますが飛翔の制作に携われたことを嬉しく感じます。取材に対応してくださった方々、飛翔の制作にあたりお世話になった方々、ありがとうございました。 27 生 佐藤 大志

飛翔の仕事に携わってみて、最初は誰もやらなかったから仕方なくやったのが実際やってみると楽しく、やりがいを感じた。インタビューで教授のお話が直に聞けたのは飛翔をやっていないとなかなかない機会だと思いました。それに自分の文章力のなさを痛感させられたのでこれから磨いていこうと思います。

27 生 松井 健太

今回初めて飛翔編集員として「飛翔」の作成に携わり、日常生活ではあまり深く関わる  
ができない方々のお話を聞くことができ、自分の考えを深めたり、見直したりする良い機会と  
なりました。お忙しい中インタビューに答えてくださった先生方、先輩方、多大な迷惑をかけ  
てしまったにもかかわらず、最後まで手助けしてくださった先輩方、本当にありがとうございます。  
この経験を通して学んだことや考えたことをこれからの生活の中でも生かしていきたい  
と思います。

27生 溝口 奈都

編集後記を書いている7月が終わろうとしている今日この頃。今私はテスト期間真っ只中  
です。うまく記事に起こせたのかはわかりませんが記事ができて一安心です。協力してくださ  
った教授の方々、事務の方々、一緒に頑張ってきてくれた仲間、本当にありがとうございます。  
そして、私の駄文を読んでくださった読者の皆様ありがとうございます。 27生 小川 巧

4月に締切日を知った時にはかなり期間があって、これなら余裕を持って作業できそう！と  
思ったことを覚えています。ところが実際に大学生活を送り始めると日々の授業や行事で案外  
忙しく、4ヶ月ほどあったはずの1セメはあっという間に過ぎて行きました。結果、作業の進  
行には余裕の欠片もありません。自分の計画性のなさにはほとんど呆れるばかりです。次号の  
作業ではもっとゆとりを持つことができるよう努めたいと思います。 27生 吉川 瑠美

編集後記…といっても本当に仕事してないんだよなあ。申し訳なさは感じているのですが。  
今少し大それたことがしてみたい、なんて思う今日この頃です。私事ですがPCへのラインの  
インストールを検討中です。通信費も抑えられるし、返事が遅れても多少大目に見てもらえ  
る、疎外感を感じない程度に健全なコミュニケーションのあり方なのではないか、そう思い  
ました…

26生 柴山 真一

初めて広報誌の制作なるものに関わらせていただきました。私は主に教授へのインタビュ  
ーを担当したのですが、大学に入学して間もない私は当然、教授と一対一で話したことはあ  
りません。アポ取りからインタビュー終了まで、緊張の連続でした。しかし、インタビュ  
ーをしていくうえで様々なお話を聞くことができ、とても楽しかったのを覚えています。良い  
経験をさせてもらいました。ありがとうございました。 27生 山岡 菜緒

今回の飛翔ではこれまでのようにインタビューには参加せず、主に原稿チェックをしていました。インタビューに行く後輩を見守りつつ、これまでの経験を生かして原稿を修正していて、初めて昨年の飛翔の先輩方の温かさを実感しました。今さらながら感謝の気持ちでいっぱいです。

飛翔に直接携わるのは今回で最後です。飛翔の編集委員をしていて、様々な人の話を聞くなどして得たものはたくさんありましたが、「文章を書くのが好きな自分」を発見したことが、一番の収穫だったと感じます。今回の号もぜひ多くの人に読んでいただきたいです。

26 生 網野 瑞貴



何か新しいことを始めたいという思いから、飛翔編集委員に立候補しました。目上の方へのインタビューから文字起こし、編集などの作業は予想以上に大変なものでしたが、かわりに普段関わりの持てない方のお話を直にお聞きするという非常に良い機会を得ることができました。編集委員としての自分の今後の課題も発見することができたので次回に活かせるように、もっと良い飛翔作りに貢献できるようにこれからも努力していこうと思います。

27 生 小川 真里奈



私たち 27 生にとっては今回の編集が初めてのものです。教授の研究室にお邪魔していろいろなお話をさせていただいたり、仲間同士で話し合ったりと充実した時間を過ごせました。至らない点が多かったですが、それを補ってくださった 26、27 のみなさん本当にありがとうございます。最後に、この「飛翔」を手にとってくださる読者の方々へ、楽しんでください。

27 生 大崎 壮巳



「飛翔」に携わっていく中で、新しい経験をさせていただきました。インタビューの中で教授がおっしゃった「生きるのは一回だけ」という言葉がとても印象深いです。まだ、大学生活は始まったばかりですが、いろいろなことに挑戦していこうと思うことができました。ご協力いただいたみなさん、本当にありがとうございました。 27 生 森 みずき



1 年間取り組んできた飛翔の編集とも今号でお別れ。これまで一緒に取り組んできた 26 生、しっかりと要望に応じてくれた 27 生、支援室担当の木田さん、この 3 号に渡って取材に応じてくださった方々に感謝しています。本当にありがとうございました。

編集長としていたらない部分もあり、ご迷惑をおかけしたと思いますが、こうして無事に発行できたことにホッとしております。

編集長 26 生 宮里 洋志

『飛翔』第 88 号、楽しく読ませて頂きました。総合科学部の先生方の研究領域は多様で、また、研究内容を詳しく伺う機会も限られています。「研究室紹介」は教員にとっても意外な情報がいくつもありました。トップバッターの青木孝夫先生の研究室紹介は通常より分量も多く、読み応えがあり、担当された学生さんの努力を感じました。携帯電話事情については、5 年ほど前から電話で話している学生さんの姿をキャンパスで見かけなくなりました。今の学生さんの電話での通話回数や時間がどうなっているのかも気になります。西条という場を意識的に関わっておられるコーヒー豆店の方や学生さんのお話を読むと、東広島で学ぶことのメリットを考えるヒントになりそうですね。編集作業は苦労も多かったでしょうが、得るものも大きかったと感じさせる内容になっています。

広報・出版委員会（飛翔担当） 的場 いづみ



一年生の諸君、大学生活には慣れたでしょうか。総科にはバラエティーに富んだ先生や先輩が数多くいます。この飛翔を足掛かりに、それらのユニークな方々にコンタクトをとってはいかがでしょうか。あなたのキャンパスライフが、一層豊かなものになるに違いありません。

広報・出版委員会（飛翔担当） 和田 正信



飛翔 88 号の飛翔編集委員のみなさんの力量が手に取れる出来栄えに拍手を送っています。総合科学部で学び、飛翔の編集をとおして、様々な方面に関心、問題意識を持って社会に関わっていくであろうことを期待しています。戦後 70 年の 8 月、喧噪けたたましい 9 月とあらためて平和について思いを巡らしています。こうした思いが共有できるとうれしなとクスッと、ほくそ笑んでいます。

総合科学研究科支援室 学生生活支援担当 木田 恵子

総合科学部報『飛翔』

2015年10月発行 通巻88号

広島大学 総合科学研究科・総合科学部

広報・出版委員会

〒739-8521 東広島市鏡山1-7-1

TEL 082-424-6319

デザイン担当

宮里	洋志
尾関	寛之
竹内	音寧
網野	瑞貴
永原	花菜